

営繕工事積算チェックマニュアル (大分県)

令和6年1月

「営繕工事積算チェックマニュアル」(国土交通省)
(https://www.mlit.go.jp/gobuild/shiryou_sekisan_unnyou.htm)
を加工して作成

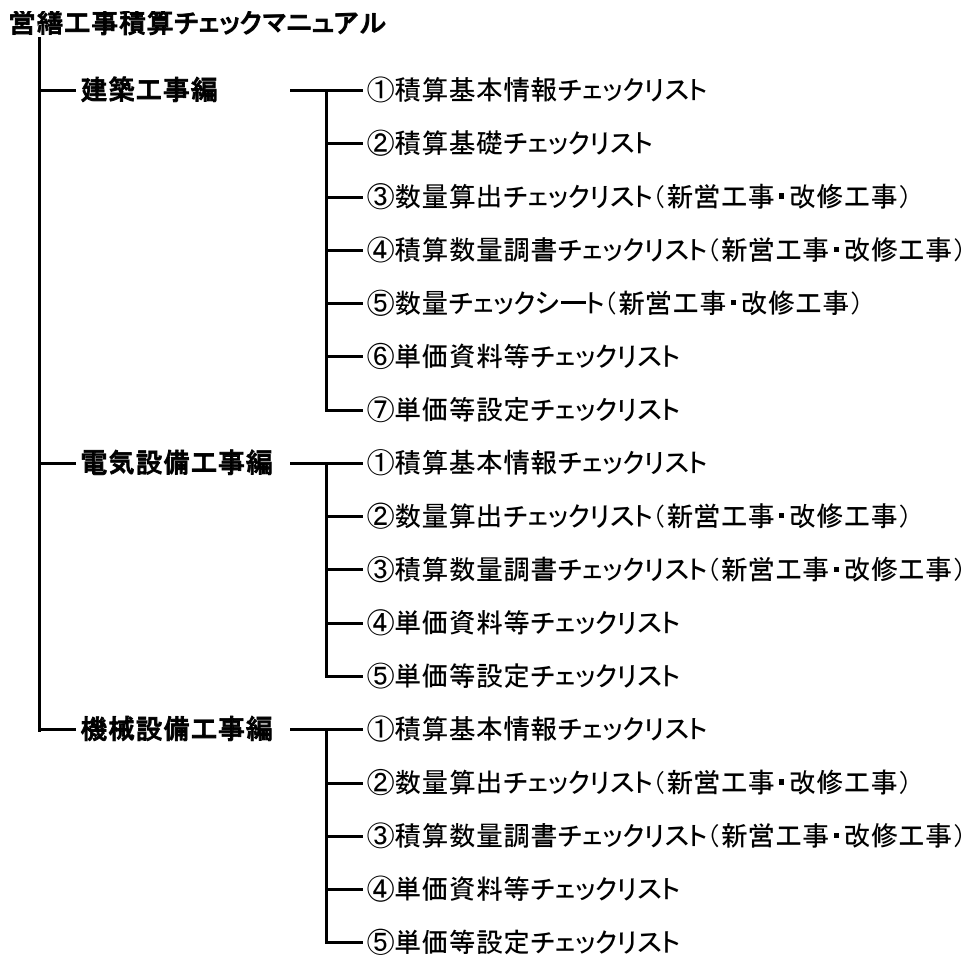
1. チェックマニュアルの目的

営繕工事積算チェックマニュアル(以下「チェックマニュアル」という。)は、積算数量の精度向上を図るとともに単価等の設定を適切に行えるよう、積算業務の各過程において、チェックすべき項目や数量確認のための数値指標等を整理してとりまとめたものである。

使用にあたっては、チェックが必要な範囲・項目について、設計内容を踏まえて発注者と事前に打合せを行いチェックする範囲を設定した上で業務を進めていくものとする。チェックシートで設定されている数値指標等については、過去に発注された標準的な事務庁舎(RC造)の実績データを使用している。積算で求められた数値がチェックシートのチェック数量等と大幅に異なる場合は、発注者と確認を行い、業務を進めていくものとする。

2. チェックマニュアルの構成

(1)チェックマニュアルの構成



①数量算出チェックリスト

受注者(設計事務所等)が積算数量算出書※₁作成時に、積算すべき仕様・規格ごとの項目や数量積算上留意すべき事項について確認するためのチェック項目。

②積算数量調書チェックリスト

受注者(設計事務所等)が積算数量調書※₂作成時に、積算すべき仕様・規格ごとの項目や数量積算上留意すべき事項及び数量が少量等の場合の項目について確認するためのチェック項目。

③数量チェックシート(建築工事のみ)

受注者(設計事務所等)が積算数量調書作成時に、計上する積算数量について、過去の工事等から算出された数値指標と、比較確認するための計算シート。

④単価資料等チェックリスト

受注者（設計事務所等）が単価資料等^{※3}作成時に、適用条件や見積書の項目等、積算上留意すべき事項について確認するためのチェック項目。

⑤単価等設定チェックリスト

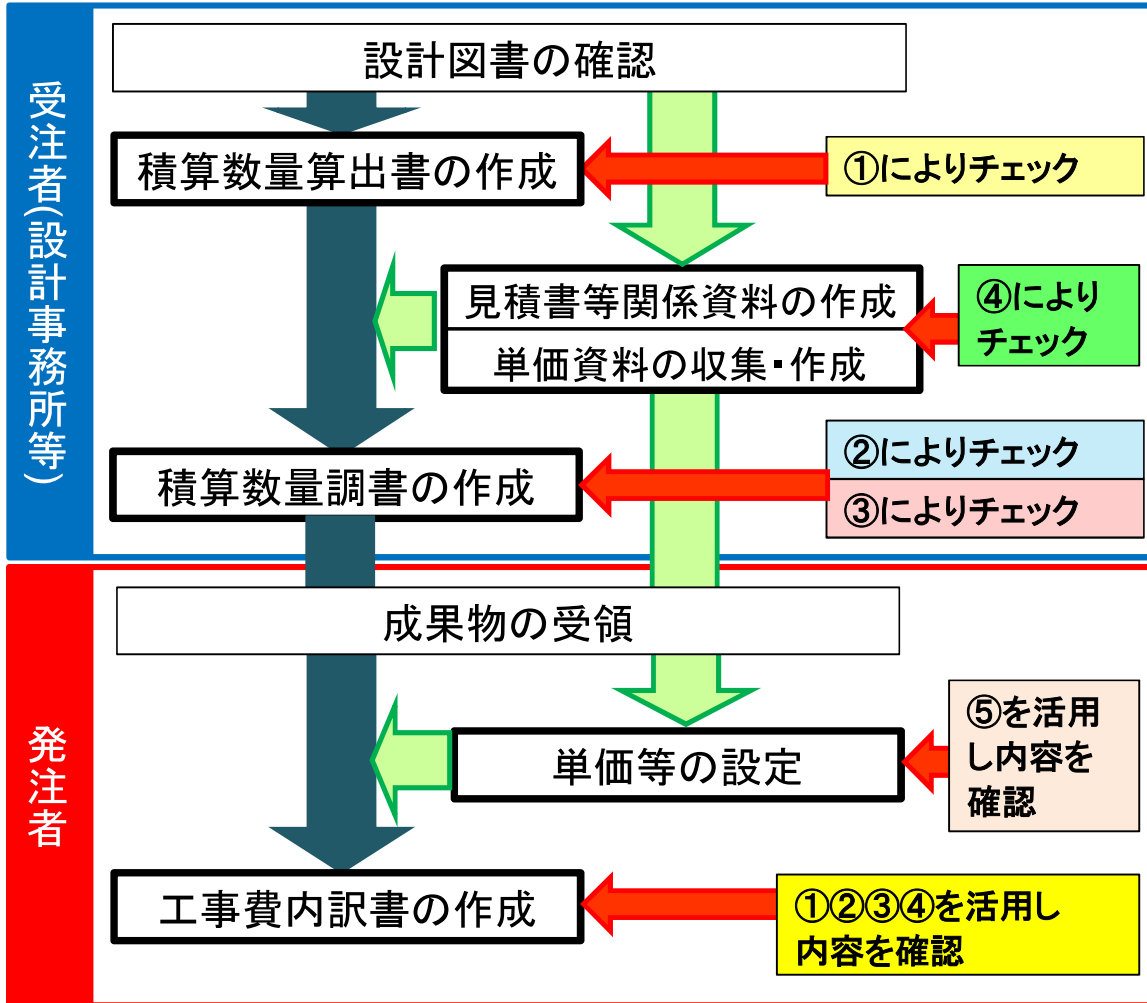
主に発注者が単価等設定時に、留意すべき事項。

※1積算数量算出書:各種数量計算書の総称(各種計算書、各種集計表、積算数量調書が含まれる。)

※2積算数量調書:積算数量算出書の数量を内訳書の体裁で構成した資料を指す。

※3単価資料等:単価等を設定するために参考とする資料を指す。

(2)積算作業におけるチェックフロー



3. 各チェックリストの確認欄

数量算出チェックリスト

確認
仕数 ▼
○
○

積算数量調書チェックリスト

確認
数 ▼
○
○

単価資料等チェックリスト

確認
単 ▼
○
○

業務受注者が確認を行う。

管理技術者※1においては、全体の確認を行い、主任担当技術者（積算）※2及び担当技術者（積算）※3は、以下の記入を行い確認する。

仕：担当技術者（積算）が設計図書の確認時に記入する

数：担当技術者（積算）が積算数量算出書の確認時に記入する

単：担当技術者（積算）が単価資料等の確認時に記入する

▼：主任担当技術者（積算）が確認時に記入する

- ※1 管理技術者：業務委託により配置される管理技術者
 ※2 主任担当技術者（積算）：業務委託により配置される積算業務の主任担当技術者
 ※3 担当技術者（積算）：業務委託により配置される積算業務の担当技術者

凡例

- ：チェック項目 ■：チェック対象外項目
 ○：確認済み -：業務対象外

4. 適用基準

- ・公共建築数量積算基準
- ・公共建築設備数量積算基準
- ・公共建築工事標準単価積算基準
- ・公共建築工事内訳書標準書式

5. 数量チェックシートについて

(1) チェック項目

直接仮設、土工、地業、躯体、外部仕上、内部仕上、金属・仕上ユニットなどに分け、積算数量調書の数量と既に完成されたRC造の事務庁舎の標準的な単位当たりの目安数値との積による数量や、各種算出数量との比較を行い数量の妥当性を確認する。

(2) 数量チェックシートの運用上の注意

建築工事の数量チェックは、建築面積や延床面積当たりの数量や略算方式に基づいて行われている。

数量チェックシートは、過去の事務庁舎(RC造)の実績データを基に建築面積や延床面積当たりの数量を分析し、標準的な目安の数値として示している。なお、異なる用途の建物であっても準用しチェックを行うことができる。

建築物は、固有性が高いため同一規模(面積)の建物であっても様々な要因により単位面積当たりの数量に相違が見られる。

従って、チェックシートに基づきチェックした判定が、NOであっても計算ミスがない限り間違いではなく、数量が多めな理由、少なめな理由を確認することが重要である。

建物の躯体、外部仕上げ、内部仕上げ数量の変動要因には様々なものがあり、以下に主な変動要因を示す。

① 建物の形状

・平面に凹凸がある場合

周長率(建物周長/建築面積)が大きくなるにつれて、数量が大きくなる。

・階高

階高により躯体、外部仕上げ数量に変動を与える。

・外部開口部

外部窓の数、窓の形状(単層・連層)により躯体、外部仕上げ数量に変動を与える。

② 建物用途

研究施設、住宅施設など間仕切り壁の多い(部屋数)施設などは、一般的に躯体、内部仕上げ数量が多くなる傾向にある。

③ 平面形状

延床面積に含まれない部分(ピット・槽類、バルコニー・庇)により、躯体、外部、内部仕上げ数量に変動を与える。

(3) 数量チェックシートによる数量チェック

数量チェックは、営繕工事積算数量チェックシートの該当する全てのチェック項目について内訳明細書の数量の転記により行う。

① 数量が目安の範囲内である場合(「OK」)

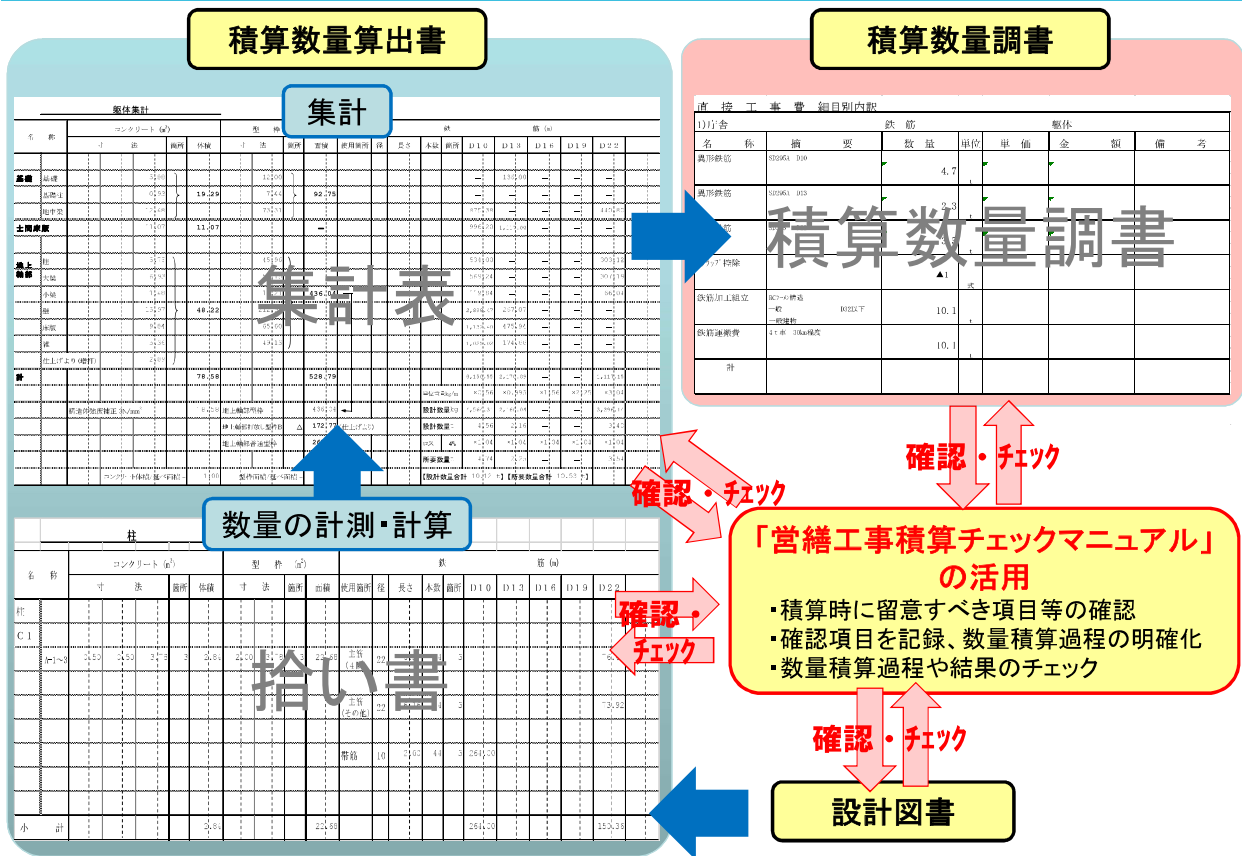
数量が目安の範囲内であっても変動要因を考慮して数量の大小の傾向をチェックすることが重要である。

② 数量が目安の範囲内から大きくはずれた場合(「NO」)

上記①のチェックによるほか、必要に応じて細部(数量調書)までの確認を行うことが重要であり、以下による。

- ・ 躯体(コンクリート、型枠、鉄筋)に関連する積算数量を階ごと及び部材ごとに整理集計した建築工事躯体集計表により、階別及び部材別の数量のバランスを確認し、異常値がないかの確認を行う。
- ・ 外部仕上げの数量は、変動要因に大きく左右されるため必要に応じて概数算出による確認も行う。
- ・ 内部仕上げの床、天井のように延床面積とほぼ等しくなる数量については、仕上げ集計表により各階別仕上げ面積計と各階の床面積との比較により異常値がないかの確認を

6. 数量算出の流れとチェックマニュアル



7. 内訳書作成の流れとチェックマニュアル

